

令和5年度の実績

【第1回】

日時	令和5年8月24日(木) 13:30~16:30
会場	岩槻駅東口コミュニティセンター ワッツルームA 参加者 54 機関 79 名
内容	<p>【講師による講演】</p> <p>テーマは『今、実践していこう地域で高める防災力』 ～西日本豪雨（2018）で被災した岡山県真備町その後の歩みから学ぶ～</p> <p>講師は倉敷地域基幹相談支援センター施設長永田拓様をお迎えして、西日本豪雨での被災経験からより実行性のある具体的な支援についての講義のほか、行政、事業所、地域住民との連携について話し合い、組織や地域でどのように取り組んでいくべきかを学びました。</p> <p>[講師]</p> <p>社会福祉法人リンク 理事長 永田 拓氏 (倉敷地域基幹相談支援センター施設長)</p> <p>【グループワーク】</p> <p>1 グループ 6～9 名、9 グループに分かれてのグループワークを実施。基本講義の感想・質問、ハザードマップを参考にリスク箇所の確認、防災のために地域の方と関係機関が協力してできること、地域の状況等の話し合いを行いました。</p> <p>【参加者からの感想等】</p> <ul style="list-style-type: none">・貴重な経験を聞く事ができて大変有意義でした。・今回のように実例を交えた講義を実施頂いて、災害対策に対する当事者意識がより高まりました。・地域の一員であるということは、つまり行政・民間という敷居を低くして何事も取り組んでいく必要があるのではないかと考えるきっかけとなりました。・大変有意義でした。講義に対するグループでの意見交換や課題共有など、時間が短いほどでした。今後も、このような場を設定していただくと有難いです・様々な立場の皆さんのお話を伺うことができまして、大変有意義でした。



【第2回】

日時	令和5年12月12日(火) 13:30~16:45
会場	岩槻駅東口コミュニティセンター ワッツルームA 参加者 56機関 85名
内容	<p>【講師による講演】</p> <p>テーマは『意思決定支援の基本的考え方～「だれもが私の人生の主人公は、私」～』</p> <p>岩槻区顔の見えるネットワーク会議では、意思決定支援を取り入れて地域での取り組みを進めていくため、講師に一般社団法人日本意思決定支援ネットワーク副代表・弁護士 水島 俊彦様をお迎えして、意思決定支援の実践的な講義のほか、グループワークを用いた演習を含めた講義を行いました。</p> <p>[講師]</p> <p>一般社団法人日本意思決定支援ネットワーク副代表・弁護士 水島 俊彦氏</p> <p>【グループワーク】</p> <p>1 グループ3名1組に分かれて、意思決定のための支援ツールを使用したグループワークを実施。日常的な場面で想定される事例をもとに、講師のナビゲートによる演習形式にて実践的に学びました。</p> <p>【参加者からの感想等】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 障害のある人の意思を聞く事の難しさを感じました。日頃の支援と重ねて考えさせられました。・ 改めて、本人の意思決定は、生きているということと等しいくらいに大切なことだと感じました。聞き方も様々な手法を凝らして確認する方法を知りました。・ 意思決定支援の具体的な方法を体験することで、情報や意思の引き出し方、また、当事者の気持ちも少し感じることができ、とても有意義な時間でした。・ 障害者権利条約など、意思決定支援がすすめられている経緯がよく理解できました。演習もとても有意義で、相手の本当の思いや困りごとを聞くことの難しさ、自分が陥っている先入観など、いろいろなことを考えさせられました。専門研修も受けて、もっと深く理解し、実践に活かしたいと思いました。・ 「意思決定支援」について、講師自身の実践を踏まえての内容だったので、分かりやすかったです。



【第3回】

日時	令和6年3月18日(月) 13:30~16:45
会場	岩槻駅東口コミュニティセンター ワッツルームA 参加者 47 機関 69名
内容	<p>【講師による講演】</p> <p>テーマ『学びを实践！岩槻区虐待防止・権利擁護研修』</p> <p>昨年度の「岩槻区顔の見えるネットワーク会議」では、権利侵害の芽（グレーゾーン）について、組織や地域でどのように取り組むかなどの検討を行いました。今年度は、講師に川口市障害者相談支援センターみぬま・主任相談支援専門員 梅田 耕 様をお迎えして、虐待防止と権利擁護を学びながら参加者が「その先」のアクションを考える機会として学びました。</p> <p>[講師]</p> <p>川口市障害者相談支援センターみぬま・主任相談支援専門員 梅田 耕氏</p> <p>【グループワーク】</p> <p>1 グループ5～6名に分かれて、日常の事例に沿った内容でロールプレイを実施。ロールプレイを通じて不適切な対応の発生原因や背景について話し合い、個人、組織、地域のネットワークで虐待防止のために何ができるのかを話し合いました。</p> <p>【参加者からの感想等】</p> <ul style="list-style-type: none">・グループワークで行った虐待かもしれない事例の共有は、定期的に複数で行うことでグレーゾーンの擦り合わせができると感じました。・改めて虐待について認識する良い機会となりました。・基本に立ち返り学ぶことができました。・ロールプレイで実際に役割を体験するなど、大変参考になりました。・ロールプレイでそれぞれの立場に立って考えられたのが良かった。また、様々な職種の方の意見を聞くことができ大変参考になりました。
	 